

くらしつながる。URくらしのアプリ	4
私もだんち特派員	5
浴室・トイレのドアノブ不具合について	6
かんたんヨガ	7
簡単おうちレシピ／プレゼント	8

編集・制作 ㈱高速オフセット

団地
de
ミツケ!

捨てられてしまうかんなくずが花束に変身 SDGsで脳トレにもつながる

男山

(京都府八幡市)

毎回テーマを決めて、団地生活の魅力を紹介する「団地deミツケ」。6月号は4月27日に、男山で行われたクラフトイベント「かんなフラワー作り」の様態を紹介します。



かわな工業の持田さん



最後は作品と一緒に記念写真!



**京都府の家具メーカーと
共同で実施**

4月27日、2024年から毎年開催している「かんなフラワー作り」が今年も男山で行われました。京都府の家具メーカー・株式会社かわな工業と共同実施するクラフトイベントで、家具製作の際に生まれる端材をアップサイクルする取り組みです。かわな工業では、端材やかんなくずも木のいのちの一部と捉え、UR団地や地域の小学校などで体験教室を行っています。

イベント冒頭、15人ほどの参加者を前にして、かわな工業の持田さんは端材を手に取り「この端材は家具の寸法がもう少しだけ大きければ、20年30年と家具として大切にされていたかもしれません。私たちは少し部位が違うだけで捨てられてしまう現状に心を痛め、新しく生まれ変わらせるアップサイクルの取り組みを始めました」とお話があり、住民の皆さんが深くうなずいていました。

**薄いかんなくずを
折り紙のように折る**

かんなくずは生まれるかんなくずは、乾燥すると割れやすいものの、水に浸すとやわらかくなり、折ることで花を作ることができます。

この日はヒノキのかんなくずが用いられ、会場はやさしい木の香りに包まれました。くらしつながるサポーターたちがサポースタッフとして住民の皆さんを手伝います。長いかんなくずを簡単な手順で折っていくと、きれいなバラができていきます。折る人によって全く違う表情になるのが不思議です。「木目が見えてきれい」「毎回参加するほど楽しみにしてる!」と皆さん、楽しそうに作業をしていました。

いくつか花が完成すると寄せ植えのようにカップにセット。それをかわな工業の方が、花屋さんのようにきれいに整え、作品は完成。皆さん満足げに眺めながら「きれいにできて大満足!」「どこに飾ろうかな」と盛り上がります。

主催したURコミュニティ京都住まいセンターの担当者は、「手先を使う体験を通じて楽しみながら脳を活性化し、身近な環境問題にも関心を持ってもらいたい」と話します。今後も多様な交流イベントを通じて、住民が安心して長く暮らせる団地づくりを目指していくとのこと。完成した作品はそれぞれ持ち帰られ、日々の暮らしの中でささやかな彩りを添えてくれることでしょう。